

2025 年 2 月 9 日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒141 番（旧 206 番）（MK 姉）

『千歳の岩よ』

聖書⇒テサロニケの信徒への手紙一 5 章 10、16~23 節（MM 姉）

『主は、わたしたちのために死なれましたが、それは、わたしたちが、目覚めていても眠っていても、主と共に生きるようになるためです。』

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。“霊”の火を消してはいけません。預言を軽んじてはいけません。すべてを吟味して、良いものを大事にしなさい。あらゆる悪いものから遠ざかりなさい。どうか、平和の神御自身が、あなたがたを全く聖なる者としてくださいますように。また、あなたがたの霊も魂も体も何一つ欠けたところのないものとして守り、わたしたちの主イエス・キリストの来られるとき、非のうちどころのないものとしてくださいますように。』

礼拝讃美歌⇒220 番

『イエス君の御名は喜び 力』

聖書⇒ゼファニヤ書 3 章 17b 節（SK 兄）

『主はお前のゆえに喜び楽しみ／

愛によってお前を新たにし／

お前のゆえに喜びの歌をもって楽しまれる。』』

< 祈 >

礼拝讃美歌⇒277 番（KH 兄）

『われらの讃美は』

《パン裂き》

聖書⇒イザヤ書 53 章 1~6 節 (KH 兄)

『わたしたちの聞いたことを、誰が信じえようか。

主は御腕の力を誰に示されたことがあるうか。

乾いた地に埋もれた根から生え出た若枝のように／

この人は主の前に育った。

見るべき面影はなく／

輝かしい風格も、好ましい容姿もない。

彼は軽蔑され、人々に見捨てられ／

多くの痛みを負い、病を知っている。

彼はわたしたちに顔を隠し／

わたしたちは彼を軽蔑し、無視していた。

彼が担ったのはわたしたちの病／

彼が負ったのはわたしたちの痛みであったのに／

わたしたちは思っていた／

神の手にかかり、打たれたから／

彼は苦しんでいるのだ、と。

彼が刺し貫かれたのは／

わたしたちの背きのためであり／

彼が打ち砕かれたのは／

わたしたちの咎のためであった。

彼の受けた懲らしめによって／

わたしたちに平和が与えられ／

彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた。

わたしたちは羊の群れ／

道を誤り、それぞれの方角に向かって行った。

そのわたしたちの罪をすべて／

主は彼に負わせられた。』

(式)

礼拝讃美歌⇒112 番 (旧 189 番)

『血潮したたる』

《建徳》

聖書⇒マルコによる福音書 8 章 31~34 節 (HK 兄)

『それからイエスは、人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日の後に復活することになっている、と弟子たちに教え始められた。しかも、そのことをはっきりとお話しになった。すると、ペトロはイエスをわきへお連れして、いさめ始めた。イエスは振り返って、弟子たちを見ながら、ペトロを叱って言われた。「サタン、引き下がれ。あなたは神のことを思わず、人間のことを思っている。」それから、**群衆を弟子たちと共に呼び寄せて言われた。「わたしの後に従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。』**』

聖書⇒マルコによる福音書 9 章 30~35 節

『一行はそこを去って、ガリラヤを通して行った。しかし、イエスは人に気づかれるのを好まれなかった。それは弟子たちに、「人の子は、人々の手に引き渡され、殺される。殺されて三日の後に復活する」と言っておられたからである。弟子たちはこの言葉が分からなかったが、怖くて尋ねられなかった。一行はカファルナウムに來た。家に着いてから、イエスは弟子たちに、「途中で何を議論していたのか」とお尋ねになった。彼らは黙っていた。途中でだれがいちばん偉いかと議論し合っていたからである。**イエスが座り、十二人を呼び寄せて言われた。「いちばん先になりたい者は、すべての人の後になり、すべての人に仕える者になりなさい。』**』

聖書⇒マルコによる福音書 10 章 32~35 節

『一行がエルサレムへ上って行く途中、イエスは先頭に立って進んで行かれた。それを見て、弟子たちは驚き、従う者たちは恐れた。**イエスは再び十二人を呼び寄せて、自分の身に起ころうとしていることを話し始められた。**「今、わたしたちはエルサレムへ上って行く。人の子は祭司長たちや律法学者たちに引き渡される。彼らは死刑を宣告して異邦人に引き渡す。異邦人は人の子を侮辱し、唾をかけ、鞭打ったうえで殺す。そして、人の子は三日の後に復活する。」ゼベダイの子ヤコブとヨハネが進み出て、イエスに言った。「先生、お願いすることをかなえていただきたいのですが。』」

聖書⇒マルコによる福音書 10 章 42~45 節

『そこで、**イエスは一同を呼び寄せて言われた。**「あなたがたも知っているように、異邦人の間では、支配者と見なされている人々が民を支配し、偉い人たちが権力を振るっている。しかし、あなたがたの間では、そうではない。あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、いちばん上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい。人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために來たのである。』」

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 13 章 13 節 (KH 兄)

『それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。』

聖書⇒ローマの信徒への手紙 5 章 3~5 節

『そればかりでなく、苦難をも誇りとします。わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。』

礼拝讃美歌⇒214 番（旧 92 番）（KH 兄）

『いかなる恵みで』

《おまけ》

礼拝讃美歌⇒297 番（YA 姉）

『見ゆるところによらず』

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 4 章 18 節

『わたしがもう一度あなたがたのところへ行くようなことはないを見て、高ぶっている者がいるそうです。』

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 5 章 7 節

『いつも新しい練り粉のままでいられるように、古いパン種をきれいに取り除きなさい。現に、あなたがたはパン種の入っていない者なのです。キリストが、わたしたちの過越の小羊として屠られたからです。』

聖書⇒ペトロの手紙一 2 章 11 節

『愛する人たち、あなたがたに勧めます。いわば旅人であり、仮住まいの身なのですから、魂に戦いを挑む肉の欲を避けなさい。』

《建徳要旨》